

私の 3 冊

大本 将之

おもと・まさゆき 医師：14 年目

福岡県済生会飯塚嘉穂病院整形・リハビリテーション科

リハビリテーション科専門医と整形外科専門医を取得後、現在、回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟・一般病棟で脳卒中や整形外科疾患を診療しています。画像も大切ですが、まずは診察所見から鑑別疾患を挙げていくことを心がけています。整形外科から脳卒中まで多様な疾患を経験させていただいているなかで基礎となっているお薦めの本を紹介します。

後輩に薦める 2 冊



整形外科医のための神経学図説 原書第 2 版

— 脊髄・神経根障害レベルのみかた、おぼえかた

J. D. Hoppenfeld, Stanley Hoppenfeld 著 長野 昭 訳

南江堂 2019 年

本書は脊髄髄節、神経根、末梢神経の各レベルに応じた症状、徴候がわかりやすく覚えやすく記述されています。Stanley Hoppenfeld, M. D. の原書第 2 版にあたり、図版がフルカラー化され、かなりわかりやすく改良されています。神経学的所見を診察するのに必須の知識が網羅されており、整形外科・リハビリテーション科専門医試験前だけでなく普段の診療にも重宝しています。



ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版

田崎義昭・斎藤佳雄 著 坂井文彦 改訂

南山堂 2016 年

診察技術は今昔変わらないものであり、発展著しい画像所見と合わせて診断することでより正確なものとなります。初診の救急隊から、回復期リハビリテーション病棟へ転院後も多職種で共有すべき情報です。そうしたベッドサイドのできる脳神経診察所見を勉強するために若手医師から OT・PT ほか多くのメディカルスタッフまで有用な 1 冊となっています。

自分の 1 冊



「脳が不快なこと」をやめれば健康になる

石川陽二郎 著

サンマーク出版 2018 年

著者は「病は気から」を科学的に「扁桃体」という視点から非常にわかりやすく、具体的で容易な対応策まで述べています。また「健康になることは人生とは何かを見つけること」や、「いただいた身体を大事に、大切にしていくことは、先祖や自然や神への感謝をすることと同じ」など単なる健康本ではなく人生訓に富む書籍でもあります。一般の読書家だけでなく、広く医療者にも通読していただきたい良書です。